

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に理念の確認をしており(掲示も含む)理念の共有を実践につなげている。	相手を尊厳することや自立支援について話し合い、理念の共有と実践に取り組んでいる。職員インタビューからも理念の共有・実践は当たり前のこととして捉えていることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月日を重ねるごとに、地域の沢山の方が訪れてくれたり、また地域の行事等ではできるだけ参加している。	自治会に加入し近所づきあいや地区の活動にも積極的に参加するなど事業所と地域との交流は双方向的である。地区のサロンへ出かけて住民とおしゃべりを楽しんだり、事業所のお茶会には一人暮らしの男性が集まり地区の情報や世間話を入居者に伝えている。地域や事業所の行事には普段の暮らしの中で当たり前のようにお互いに行き来している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者とのお茶会、及び一人暮らしの男性とのお茶会を行ったり、地域の方々との日々の交流の中で、認知症への理解や支援を、サロン等の機会を通じて伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議については全職員に閲覧してもらい、必要なことはケース会議等で検討している。サービスの向上に生かしつつある。	2ヶ月毎に開催し、事業所からの報告や委員からの意見・質問等、前向きな話し合いが行われている。外部評価結果を報告し、課題の取り組みについても随時報告を行いサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町とのつながりは、運営推進会議、訪問調査、夏祭りぐらいなので、もつと行き来する機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。又、町長にも足を運んでいただけるようになり、更なるつながりを深めて行きたい。	担当者とは様々な機会をとらえながら連絡を取り合っており、事業所の現状確認や市町村からの情報などを伝えている。事業所は入居者の暮らしぶりや利用状況などを積極的に伝えており協力関係が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について、会議で話し合いをし、身体拘束をしないよう努めている。	職員は身体拘束の内容とその弊害を認識しており、拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。以前オーバーテーブルの使用に当たり、職員間で十分話し合い、家族にも相談するなど慎重に取り組まれた事例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう、常に注意を払っている。		

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用で	研修等の参加及び書面の資料により、理解している職員もいるが、理解していないこともあり、研修等への参加を行って、支援に活用できる知識を共有した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面及び口頭で行い理解、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との昼食会等の機会を設けており、意見要望は常時受けて、改善に取り組んでいる。	家族等の訪問時には積極的に声を掛け、意見や要望を伺うようにしている。またホーム便りにも文書を書き載せ多くの意見や要望を出してもらえるよう取り組んでいる。運営推進会議のメンバーに家族が2名参加している。頂いた意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は聞いてもらえる。相互関係が良いため反映できている。	月一回の会議では研修報告や介護計画など多くの報告・検討が行なわれており、毎回有意義な話し合いが行われている。管理者は不定期ではあるが必要に応じて個人面談をしている。何でも相談したり、話し合える人間関係が出来上がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定の見直しにより、キャリアパス等、今後いっそう向上心を持って働ける環境にしていってほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、社協内部でも研修を行っている。本人が行きたい研修を受けられる機会を設けている。又、新人の介護技術講習を法人で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域による学習会に参加したり、相互交流を行うなどして、広域全体のグループホームの質の向上を目指している。		

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者、職員が本人に会い、現状やグループホームに入居してからどんな生活を送りたいか聞く機会を作り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がグループホームに対して望んでいることを理解して、不安なことが少しでも軽減できるように話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族だけでなく担当のケアマネージャーや、今まで利用されていた事業所の方と話し合いの機会を持ち、その人が必要なサービスを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、出来る力を奪わずにその人の満足感、達成感が得られるような支援を行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡を取り、本人を支えるよう努めているが、家族がG・Hで落ち着いて生活している事に安心して来所が少ない家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行ったり、町の行事等に参加したり、昔からの友人等にも声かけを行い交流の機会をつくり、関係が途切れないよう勤めている。	入居後も地域や家族との繋がりを大切にしている。入居前の人や場所との関係が継続できるように、日々職員が場面作りに取り組み支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり相談にのり、入居者同士の関係がうまくいくように、職員が間にはいり対応している。		

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルで亡くなる方が多くなってきている。その家族とは良い関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の今までの生活歴を把握し、希望、意向に添うよう努めている。	職員は入居者一人ひとりの思いや意向等について常に関心を持ち、把握に努めている。思いや意向を聞きだすことは難しいが、必要な時には『～だから～しよう』などと分かりやすい言葉で声を掛けている。行事等の参加の有無についても必ず一人ひとりに声を掛け確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り、フェイスシート等の内容の共有ができており、これまでの暮らしを把握している。生活していくなかでも本人、ご家族等より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのリズムを理解するとともに、行動を見守り、その日の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族と必要に応じて話し合いを行っており、現状に即した介護計画を作成している。また、会議において毎月プランについて話し合っている。	計画作成担当者が中心となり個別の介護計画を作成している。ケース会議で3ヶ月ごとに見直しと評価を行っている。遂行状況はケース記録等で確認している。状態が変わった場合には現状に即したものに書き変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録等により、情報の共有を行い個別ケアの実践や、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人やご家族の状況、その時々ニーズに対し、受診や食事の提供等早急に対応している。		

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、区長、民生委員をはじめ、地域の方にグループホームへ訪れてもらえるような声かけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や緊急時の病院について話し合い、それに沿って支援している。体調の変化により、主治医が変わることもあるため、その時々話し合いを持っている。往診してくれる医師とは密な関わりを持ち、適切な対応を受けている。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。通院や受診は家族にお願いしているが職員が家族に代わり付き添うこともある。本人の身体状況等の情報は家族に口頭で伝えている。	より正確な情報が医療機関や家族等に伝わるように文書等での連絡方法の検討を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また、社協本体の看護師の支援も受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の対象者がいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けて指針ができていて、ご家族に説明してある。また、その時々で話し合いを行っており、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。又、法人もその時々において支援体制に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期に向けた事業所の方針を契約時に本人、家族等に説明している。開設以来2名の入居者の最期を看取っている。家族や医療機関と密に連携を図りながら本人が穏やかに最期を迎えられるよう職員全員で最善を尽くす支援に取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の講習、実践を受けている。また、対応マニュアルができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、消防署を呼んで地域の人と火災に対する訓練を行っている。地震、水害に対する訓練は行っていないため、改善していきたい。	年2回消防署の指導の下、地域住民の見守りの中で避難誘導訓練、消火器の扱い方や通報訓練を実施している。今後夜間想定訓練を予定している。自動火災報知器とスプリンクラーの設置を検討中である。災害の発生に備えて介護用品などを備蓄している。	

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く生きてこられたことを常に頭に置き、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	人生の先輩として尊重の気持を抱きながら一人ひとりに合った言葉掛けを行っている。入居者の呼び方は本人と家族の希望を伺っているが同姓が多いこともあり名前で呼び合っている。馴れ合いなどから好ましくない対応や言葉掛けがあった場合には日々の中で話し合い注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方らしい生活を支援し、日々の希望を聞けるような関係作りに努め、自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。また、したい事がかなえられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに合わせて本人の希望を聞きながら、その人らしくできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅での調理方法や味付けを聞きながら行っている。準備や片付け等一緒に行うことは少なくなってきているが、食事は一緒に摂っている。	昼食の準備中の「いい匂いだな～」との声に笑いが飛び交う。食堂から廊下、外までも料理の匂いが漂っている。食事中は餃子が非常に美味しくできたことを褒め合い、それからラーメンが食べたくなったと話しが弾み、楽しい雰囲気にもまれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス一週間のメニュー表を見て偏らないように心掛けている。水分量、食事は、必要に応じてチェックし、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアはチェック表に記入している。昼食後行っていない人もいるが、お茶は飲んでもらっている。		

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のない人には排泄パターンを知り、トイレでの排泄を大切にしている。また、一人ひとりに合った支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており様子を見ながらトイレへ誘導している。夜間は紙パンツ等を使う入居者も日中は布パンツと尿とりパットで過ごし、トイレでの排泄支援が行なわれている。夜間は一人ひとりの睡眠状況に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食物繊維を摂るように心掛けて、自力排便がおこなえるように工夫している。その人に合った排便パターンで、下剤を服薬していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿った入浴を行っており、曜日、時間は決まっていない。	入居者が希望した場合には何時でも入浴できるよう取り組んでいる。嫌がる入居者には無理強いせず、言葉掛けを工夫したりタイミング等を見ながら週一回以上は入浴できるよう支援している。気分良く、リラックスして入浴できるように菖蒲湯、柚子湯などの季節感のある入浴や入浴剤なども使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間安眠できるような生活を続けるとともに、その時々状況に応じ、日中も休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解している。処方の変更されたときも職員全員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行えている方もいるが、役割の少ない方もいるので、得意分野で力を発揮してもらえるような支援につなげたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出できるよう支援している。(散歩・買い物・ドライブ等)また、サロンへ参加し、地域の人と交流し一緒に出掛ける事ができる機会も設けている。	自然が織り成す景色の良い場所への四季折々のドライブ、一人ひとりの希望に沿った個別の外出支援、地域の行事に出かける等、外出の機会を積極的に設けている。地区(隣組)の温泉旅行には入居者と職員が参加し、事業所恒例の一泊旅行には地域住民が参加し相互に交流している。	

グループホームみよた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金(財布)を持ち、自ら管理し使用することもあるが、グループホームでご家族よりお金を預かり、必要に応じて使用していただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があればいつでも談話をしたり、手紙を出すことができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、一年を通しての行事を行うことで、季節感を感じてもらい、その時々で配慮を行い、居心地良く過ごせるよう工夫している。	飾り障子を通した天窓からの柔らかい採光が広い食堂とキッチンを照らしている。廊下には所々に長椅子が置かれているが車椅子移動には支障ない広さがある。和室には冬になるとコタツができる。近所の人も交えた入居者との話し声や笑い声が響き、料理をする音や食欲をそそる匂いが漂う。職員は気持ちよく過ごせる環境づくりに日々努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、リビング等その時々でその人らしく過ごせるような工夫をしている。また、食堂、リビングは一体的で全てが視界に入ってしまうため、廊下にイスを置き、一人で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用していた物を搬入してもらい、その人らしく生活できるような工夫をしている。またその時々状況に応じて、家族と連絡を取り合い、その人に必要なものを用意してもらい使用していただいている。	自宅で使っていた家具、仏壇、家族写真など馴染みの物が持ち込まれており、その人らしく居心地よく過ごせるように配慮されている。各居室にはベランダが設置されており洗濯物や布団干しに使われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が新しく、一人ひとりの身体機能を生かした生活ができるように造られている。その人の残存機能に合わせた生活が送れるよう工夫している。		